

**NATURAL SOUND
STEREO PRE-AMPLIFIER**
取扱説明書・保証書

CS-2X

ご使用前に必ずお読みください。
本書には、保証書が添付されていますので、所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

1 特長

このたびは、ヤマハ・ステレオリアンプC-2xをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

C-2xの開発にあたりまして、ヤマハの持つエレクトロニクス技術を結集して、高SN比、低歪率に加え広帯域を高い次元で実現し、高性能に徹した充実のリアンプとして完成させました。

C-2xの優れた性能を十分に発揮させるとともに、長年支障なくご使用いただくために、この取扱説明書をぜひお読みくださいますようお願いいたします。

目次

ご使用になる前に次のことにご注意ください	2
接続図	3
接続のしかたと注意	4
各部の名称と機能	6
PHONOセレクターの使いかた	9
特性表	10
フロッグダイアグラム	11
参考仕様	12
故障と思われるときには	13
サービスのご依頼について	14

特長

●MCヘッドアンプ

ローノイズトランジスタをコンプリアメタリイでペアで使用。更にZDR回路の採用で高SN比(88dB)、低歪率を実現しました。

●イコライザーアンプ

High gm ロードノイズDual FETをペアで使用。更に、ZDR回路の採用や10dBゲイン切換可能により、ローノイズ、低歪率を許容入力530mVで実現しました。

●低インピーダンス4連ボリューム

0dBバンプアンプを採用しボリュームの低インピーダンス化を図り、かつ4連ボリューム方式により小音量時のSN比、歪率、更に周波数特性を改善しています。

●入力インピーダンス2.2MΩのDDAD入力

DAD専用高入力インピーダンスにより、接触部での影響、外部ノイズの影響を軽減しています。

●トーンコントロール

センターでディフューズ機構を持つ高精度21点クリック付特殊ボリュームを採用。また、高品質フィルムコン使用のNF型トーンコントロール回路により、高精度で低歪率を得ています。

●0dB出力アンプ

プリアンプにはヘッドホンも直接ドライブできる低歪率0dBアンプを採用し、低出力インピーダンスを実現しています。

●ミューテイング回路

PRE OUT、REC OUTは信頼性の高い独自の半導体スイッチによるミューテイング回路を採用し、電源ON/OFF時のノイズを防止しています。

●2トランス独立電源

信号の入力部と出力部のアンプの電源を完全に分離した2トランス独立電源で、4,700 μ Fの低倍率ケミコンを各4個(計8個)使用した強力電源になっています。

●クオリティパーツの使用

非磁性体切削型金メッキピンジャック、極性表示付無酸素銅電源コード、オーディオ用高品質フィルムコン、プラスチックケミコン、高精度高品質ダイオードボリュームなど、クオリティパーツの使用により音質、精度、耐久性を追求した設計になっています。

ご使用になる前に次のことにご注意ください

設置場所について

次のような場所で長時間ご使用になりますと、音質が悪化したり故障などの原因となります。

- 窓際など直射日光の当たる場所や、暖房器具のそばなど高温になる場所(周囲温度40℃以上)、または温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)では製品の機能を維持できない場合がありますのでご注意ください。

- 湿度の高い場所(湿度90%以上)では金属部品にサビを生じることがあります。

- ホコリの多い場所や磁気の強い場所(テレビやモーターの近く)では、スイッチなどの接触不良や雑音等の発生原因になります。

- その他、振動の多い場所もさけてください。また、結露が発生した場合は、一時的に正常動作しないことがあります。



セットのお手入れには

セットをペンジン、シンナー系の液体でふいたり、化学ぞうきんを使ったり、近くでスプレータイプの殺虫剤を散布することはさけてください。ペンジンやシンナー類がつくと、キャビネットが汚れたり変色したりします。

お手入れは、必ず柔らかい布でからぶきするようにしてください。

取り扱いにはいていねいに

スイッチやツマミ、キャビネットなどに無理な力を加えることはさけてください。

水に濡れたら

万一雨が降ったたり、花びんなどの水をセットにごぼしたときは、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。そのまま電源を入れますと、発煙や故障の原因になりますのでご注意ください。

ケースを開けない

トップカバーや底板を開けて内部に手などを入れますと、故障や感電事故を起こすことがあります。何か異物が入ったときは、すぐ電源プラグを抜いて販売店にご連絡ください。

電源電圧はAC100V

定格電圧100Vでご使用ください。また、電源コードは大切に扱ってください。特に、コンセントからはずすときは、必ずプラグを持って抜いてください。

- 本機は、AC100V±10V、50/60Hzの範囲でお使いください。この電圧以外のご使用は保証できかねます。

ACアダプトレット

リヤパネルの電源コンセントの容量は、SWITCHED側は3個で450Wまで、UN-SWITCHED側は400Wまでです。消費電力を確かめて容量以上の機器は、絶対に接続しないでください。

セットの移動

セットを移動する場合は、接続コードのシヨートや断線を防ぐため必ず電源プラグを抜き、他のセットとの接続コードをはずしてから動かしてください。

落雷に対する注意

落雷のおそれのあるときは、早めにコンセントからプラグを抜きとってください。

入出力コードを抜き差しする場合

クイックノイズによるスピーカーの破損を防止するため、接続コードの抜き差しは、電源スイッチを切ってから行ってください。

もう一度調べてください

故障かな?と思ったら、まず「故障と思われるときには」をご覧ください。意外なところで操作を誤っていることがあります。

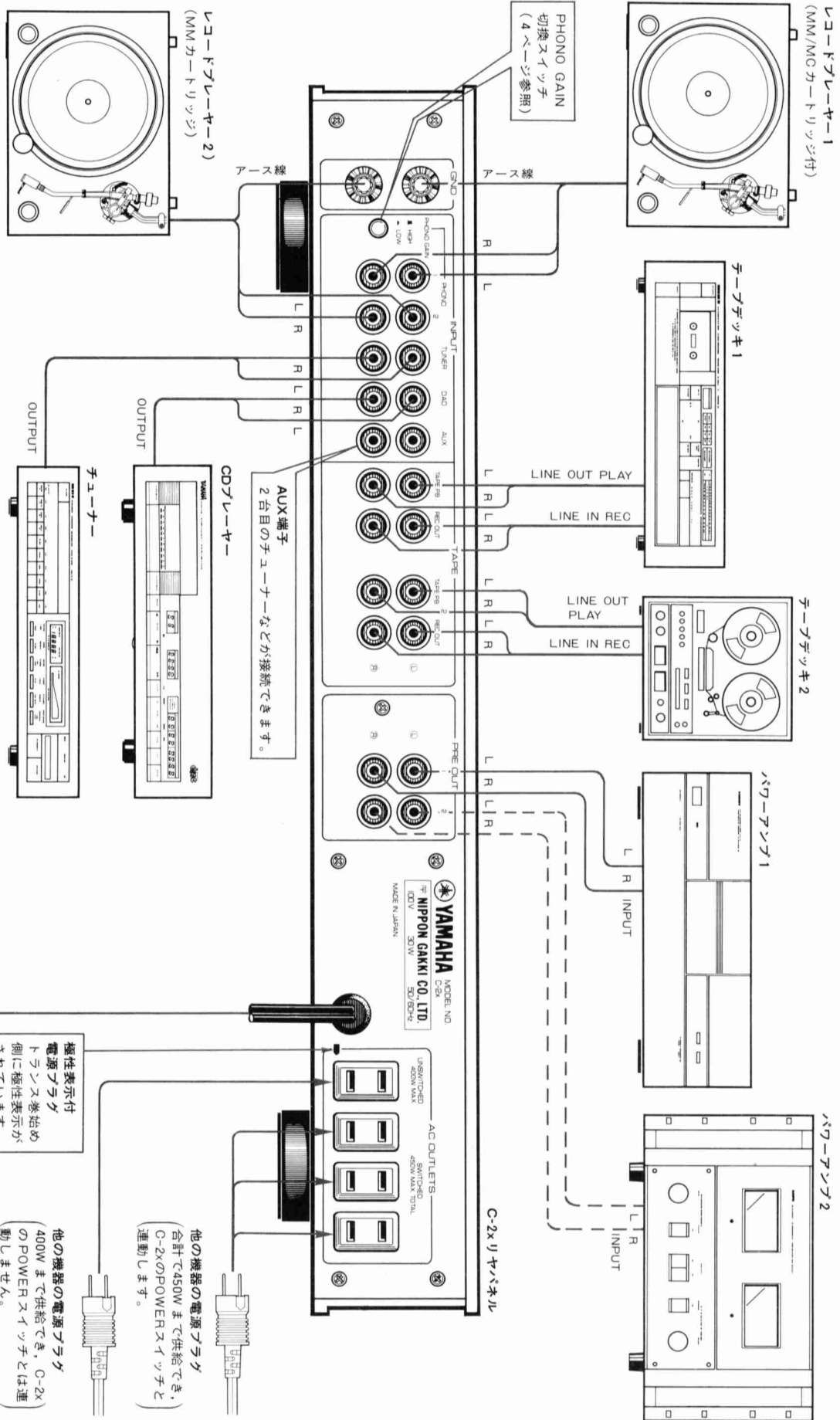
保証書の手続きを

ご購入求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがあります。保証期間中でも万一サービスの必要がある場合、実費をいただくこととなりますのでご注意ください。

保管してください

この取扱説明書をお読みになりました後も、保証書とともに大切に保管してください。

接続図



※上記の入出力端子、PHONO 1、2の各し、R端子にショートピンプラグが接続されています。この端子をご使用の際は、取り外してご使用ください。
(PRE OUT, REC OUT 端子には接続しないでください。)

※ VOLUME, TREBLE共に最大の位置で、PHONO端子にスピーカコードを近づけますと、特性的に最良の状態が得られますのでご注意ください。
※接続の際は、各機器の右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して接続してください。

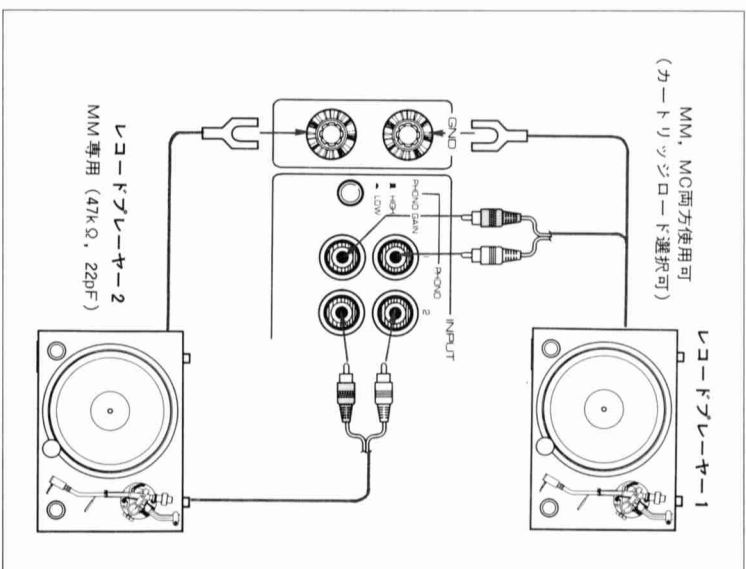
接続のしかたと注意

レコーププレーヤーの接続

- PHONO 1 端子には、MM型 (IM, MI型)、MC型どちらのカートリッジが付いたプレーヤーでも接続でき、その選択はフロントパネルの PHONO セレクターで行ないます。またこの端子については、カートリッジの負荷容量の選択もできます。(9ページ参照) 更に、この端子については、PHONO GAIN 切換スイッチにより、カートリッジの出力電圧に対する入力感度の切り換えができます。

PHONO GAIN	MM型	MC型
HIGH (■)	2.5mV	100 μ V
LOW (▲)	7.9mV	316 μ V

- 市販のカートリッジには、MM型、MC型含めて多種多様なものがあり出力電圧も異なります。ご使用のカートリッジの出力電圧を調べ、その値に近い方にスイッチをセットしてください。
- PHONO 2 端子は、MM型 (IM, MI型) カートリッジ専用で、カートリッジロードも 47K Ω 220pF に固定されています。なお、PHONO 1 端子同様ゲインの切り換えができます。
- プレーヤーの出力コードの L、R を確認し、PHONO 1 あるいは 2 端子に接続し、アース線を GND 端子に接続します。



TUNER、DAD、AUX 端子への接続

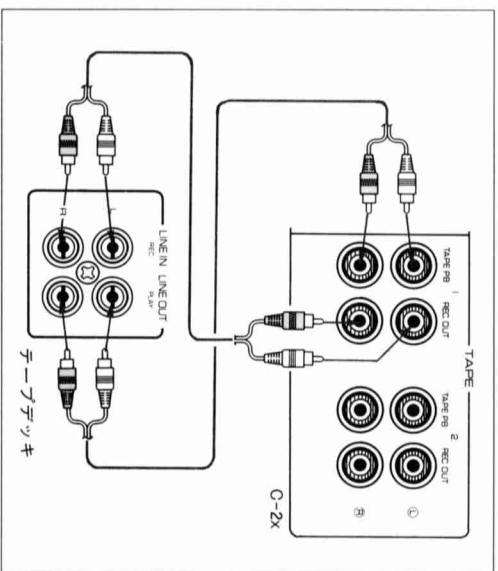
- チューナーは TUNER 端子へ接続します。
- DAD 端子には CD プレーヤー (ヤマハ、CD-1 など) を接続します。
- AUX 端子は補助入力端子です。2 台目のチューナーや、テレビチューナーなどが接続できます。
- 各機器の取扱説明書を参照し、L、R を確認して接続してください。

テープレックの接続

本機の TAPE 1 あるいは 2 端子と、テープレックの入出力端子の L、R を確認し、次の端子間を接続します。

C-2x テープレック

TAPE PB (再生入力) ↔ LINE OUT (再生出力)
REC OUT (録音出力) ↔ LINE IN (録音入力)
同様にして、2 台のテープレックが接続できます。



パワーアンプの接続

PRE OUT 1 あるいは 2 端子と、パワーアンプの INPUT 端子の L、R を確認して接続してください。PRE OUT 1、2 は同じ機能の出力端子です。どちらに接続しても同じです。

※PRE OUT 端子へパワーアンプを 1 台のみ接続する場合は、一方の PRE OUT 端子にショートピンなど絶体に差し込まないでください。また、電源が入っていないパワーアンプの並列接続はしないでください。

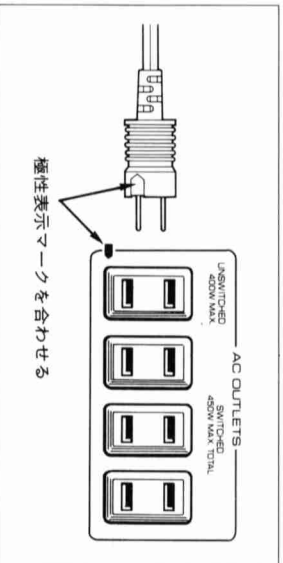
◆AC OUTLETS(予備電源コンセント)への接続

1. 消費電力450W以下の機器は、本機のAC OUTLETSのSWITCHEDに接続し、電源をONにしておきますと、本機の電源スイッチと連動させて電源のON、OFFができます。

※SWITCHEDのコンセントは3つで450Wまでです。接続機器の消費電力を確かめ必ず450W以下で使用ください。

2. UNSWITCHEDには、消費電力400W以下の機器が本機の電源スイッチのON、OFFに関係なく接続できます。

※本機のAC OUTLETSには、電源プラグと同様にトランスの巻始め側に極性表示(●)があります。電源プラグに極性表示がある他の機器を接続する場合は、極性表示を合わせて接続してください。



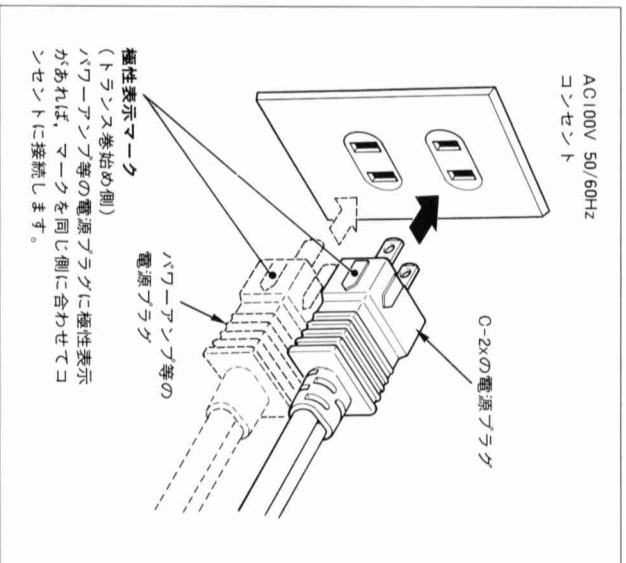
大出力のパワーアンプでは、電源を入れたときなど瞬間的に大電流が流れますので、原則として本機のAC OUTLETSからは電源をとらないでください。

◆電源の接続

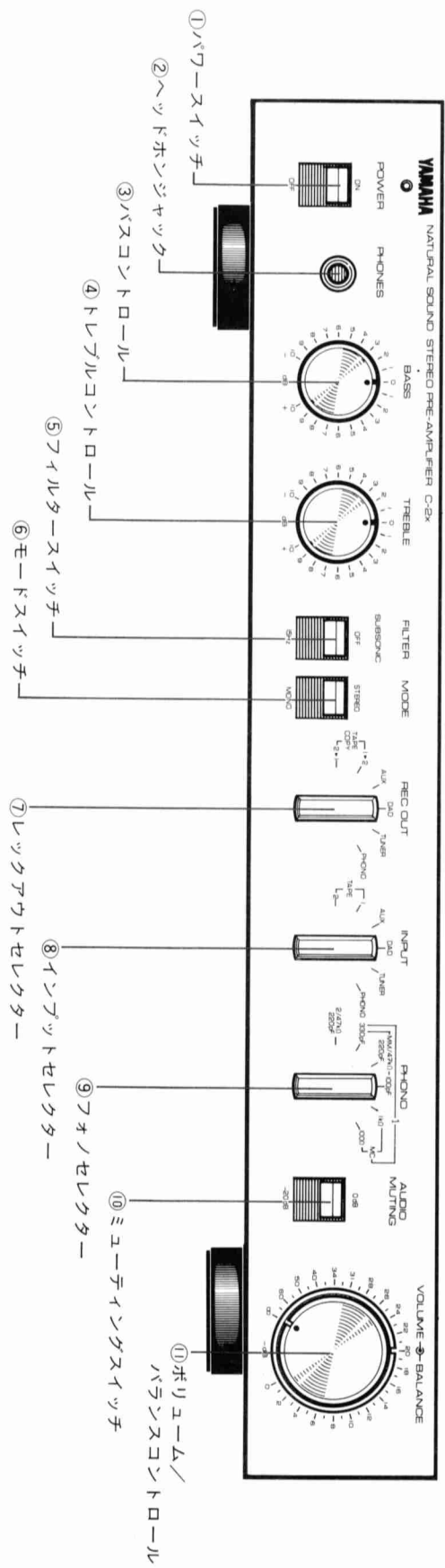
まず本機の電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。(ONの状態では電源を接続しますと、悪影響を与えることがあります。)

本機の電源プラグには極性表示があります。パワーアンプ等の電源プラグに極性表示があれば、プラグの極性の向きを合わせて接続してください。

※電源はできるだけ壁などのコンセントを使用し、本機専用コンセントとしてご使用ください。



各部の名称と機能



①POWER (パワースイッチ)

スイッチを“ON”にすると電源が入り、上のインジケータが点灯します。“OFF”にすると電源が切れ、インジケータも消えます。

※電源を入れるときは、不用意に大きな音が出ないように必ずVOLUMEを最少にしておいてください。
 ※電源を入れてから数秒間はミュートインジケータが働いているため音は出ません。

②PHONES (ヘッドホンジャック)

ヘッドホンを接続します。プラグを差し込みますと、リヤパネルPRE OUT端子からの出力はどちらもOFFになります。夜間などは、隣近所に迷惑をかけないためにもヘッドホンのご使用をおすすめします。ヘッドホンは、L、Rを確認して正しくお使いください。

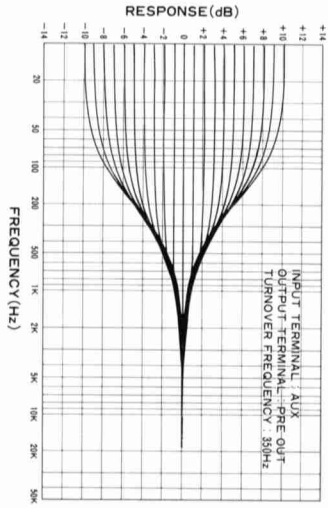
③BASS (バスコントロール)

低音域の特性をコントロールします。“0”の位置で完全にデインファートされフラットな特性になり、右に回すほど低音が強調され、左に回すほど減衰されます。

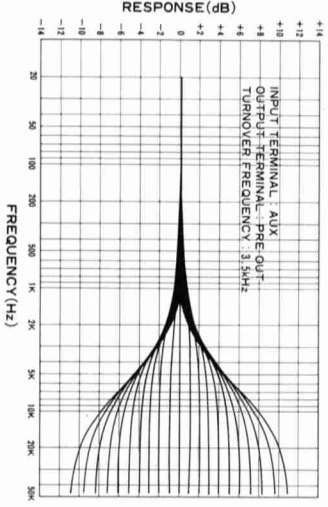
④TREBLE (トレブルコントロール)

高音域の特性をコントロールします。BASS同様、“0”位置で完全にデインファートされフラットな特性になり、右に回すほど高音が強調され、左に回すほど減衰されます。

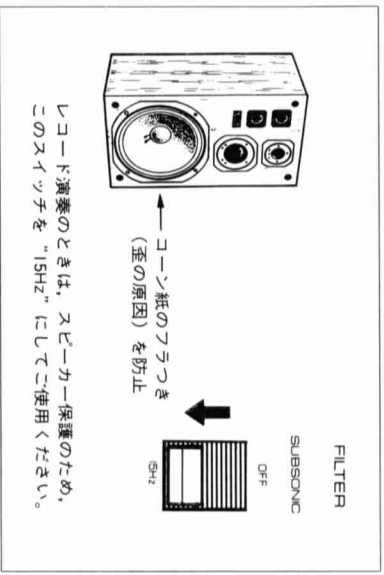
● BASS 変化特性



● TREBLE 変化特性

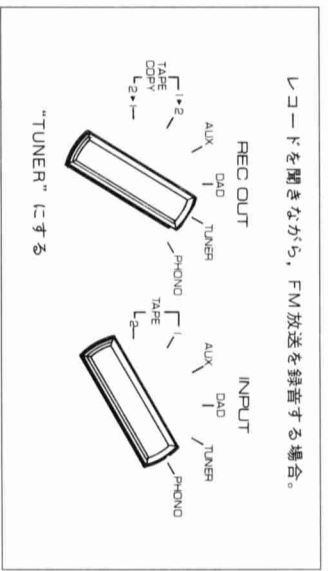


⑤ **FILTER (サブソニックフィルタースイッチ)**
 スイッチを“15Hz”側にすると、15Hz以下の可聴範囲外の超低域をカットして、スピーヤーの共振周波数やレコードのソリなどによるスピーカーの超低域振動（コーン紙のフラツキ）を防止します。レコード演奏のときにはスピーカー保護のため、スイッチを“15Hz”側にご使用ください。



⑥ **MODE (モードスイッチ)**
 プログラムソースの再生モードを切り換えます。“STEREO”で通常のステレオ再生になり、“MONO”ではモノラル再生になります。通常は“STEREO”にしておきます。

⑦ **REC OUT (レックアウトセレクター)**
 テープデッキに録音するためのプログラムソースを選びます。INPUTセレクターに関係なくソースを選んで録音することができます。例えば、レコードを聞きながらREC OUTセレクターを“TUNER”にしてFM放送を録音するという、ダブルアクションや、テープのダビングなどができます。



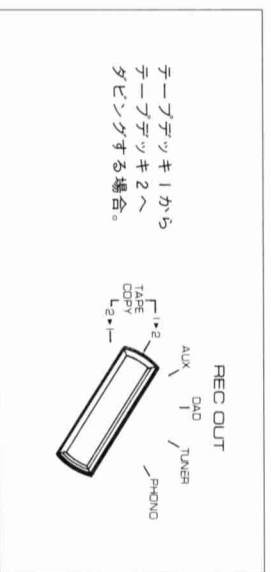
● **ダブルアクションの主な操作例**

INPUT セレクター	REG OUT セレクター	ダブルアクション
PHONO	TUNER	レコードをスピーカーで聞きながらFMまたはAM放送を録音できます。
TUNER	TUNER	FMまたはAM放送をスピーカーで聞きながら同時に録音できます。
PHONO	PHONO	レコードをスピーカーで聞きながら同時に録音できます。
TUNER	PHONO	FMまたはAM放送をスピーカーで聞きながらレコードを録音できます。

この他にも、INPUTセレクターとREC OUTセレクターの組み合わせにより、いろいろなソースを二重に楽しむことができます。

● **テープのダビングについて**
 テープデッキが2台ありますと、テープからテープへダビングすることができます。リヤパネルのTAPE 1端子に接続しているテープデッキ1から、TAPE 2端子のテープデッキ2へダビングする場合は、

1. REC OUTセレクターを“TAPE COPY 1▶2”にセットします。
 2. テープデッキ1を再生状態にし、テープデッキ2で録音します。
- テープデッキ2から1へのダビングも同様にして、REC OUTセレクターを“TAPE COPY 2▶1”にし、上記2を逆の状態にすることができます。



⑧ **INPUT (インプットセレクター)**
 リヤパネルのINPUT端子及びTAPE 1, 2端子に接続されたプログラムソースを選択します。お聞きになるプログラムソースに合わせて切り換えてください。

⑨PHONO (フオノセレクター)
 リヤパネルのPHONO 1と2端子に接続したレコー
 ドプレーヤーのPHONO 1と2端子に接続したレコー
 ドプレーヤーの選択と、MM型/MC型カートリッ
 ジの切り換え、更に、PHONO 1端子についてはカ
 ートリッジロードの選択ができます。
 詳しい説明については9ページをご参照ください。

⑩AUDIO MUTING

(オーディオミュートイングスイッチ)
 スイッチを“-20dB”側になると、VOLUMEを回
 せずにアンプのゲインを20dB(1/10)上げることが
 できます。“0dB”にすると元の音量に戻ります。
 演奏中の電話の対応など、一時的に音量を上げる場
 合便利です。
 また、小音量で聞くとき、このスイッチで音量をさ
 げておくと、VOLUMEで音量調整をする際細かい
 調整ができます。

※このスイッチで音量を上げVOLUMEで音量をあ
 げているとき、このスイッチを0dBにすると、急
 激な音量変化によりスピーカーに悪影響を与えま
 すのでご注意ください。

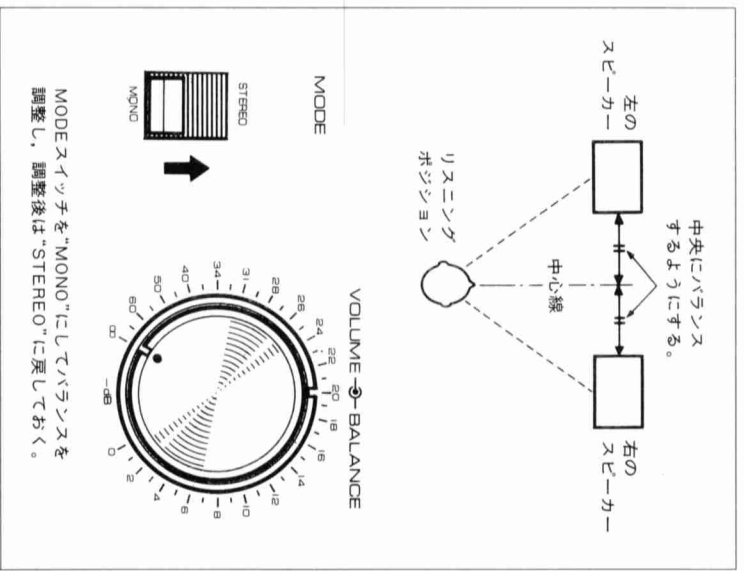
⑪VOLUME/BALANCE

(ボリューム/バランスコントロール)
 手前のツマミがボリュームで、奥のツマミがパラン
 スです。

●VOLUME.....全体の音量を調整します。右
 に回すほど音量は大きくなります。

POWERスイッチをはじめ、各スイッチを切
 り換えるときや、レコードに針を降ろすとき、
 針を上げるときは一度音量を最少にしてくだ
 さい。

●BALANCE.....左右のスピーカーの音量パラン
 スを調整します。ツマミを右(左)に回すと左
 (右)の音が小さくなります。
 バランス調整は、MODEスイッチを“MONO”に
 し、左右のスピーカーの音が中央に聞こえるよ
 うにします。調整後はモードを“STEREO”に
 戻しておきます。



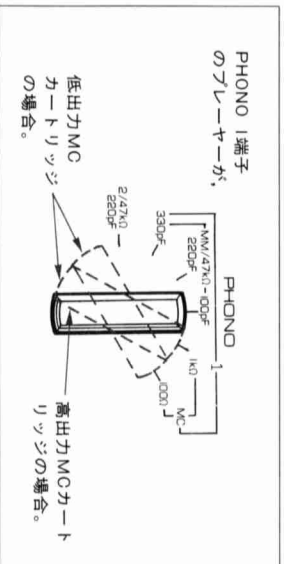
PHONOセレクターの使いかた

●PHONOセレクターの使いかた

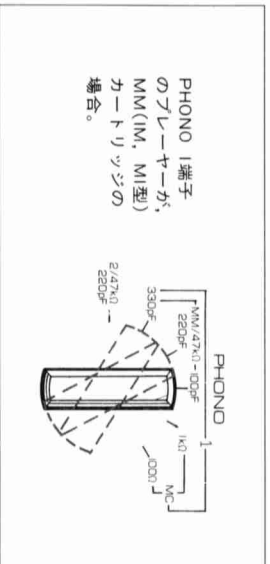
一般にPHONO入力端子では、負荷抵抗及び負荷容量がカートリッジの指定値と合っていないと、音質に悪影響を与えます。本機のPHONO 1端子では、このカートリッジロードの選択ができますので、カートリッジの特性を充分に發揮させることができます。

●PHONO 1端子のプレーヤーのカートリッジが……

1. 低出力MC型の場合は、MCの2ポジション(1k Ω 、100 Ω)のうち、音質などお好みに合わせて選んでください。
- 高出力MC型の場合は、“MM”ポジションにセツトします。



2. MM型 (IM, MI型) の場合は、MMの3ポジション (100pF、220pF、330pF) のうち、カートリッジの指定負荷容量値に近い方を選んでください。



このように、実際の使用方法は、カートリッジメーカーがその製品に指定した値にセツトすれば良いのですが、指定をしていないものが多いので、いろいろなレコードを再生し、好みの音になるポジションを選んでください。(容量値等を変えると周波数特性が多少変化します。)

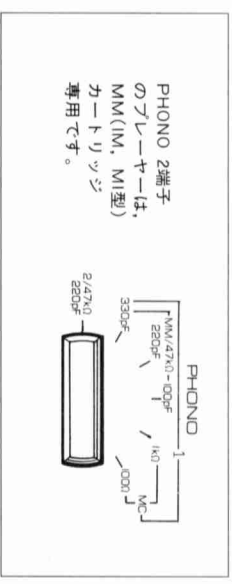
また、メーカーの指定値と変えることにより、異なった音色にすることもできます。

※カートリッジの出力電圧は機種により異なりますので、カートリッジの説明書を参照してください。

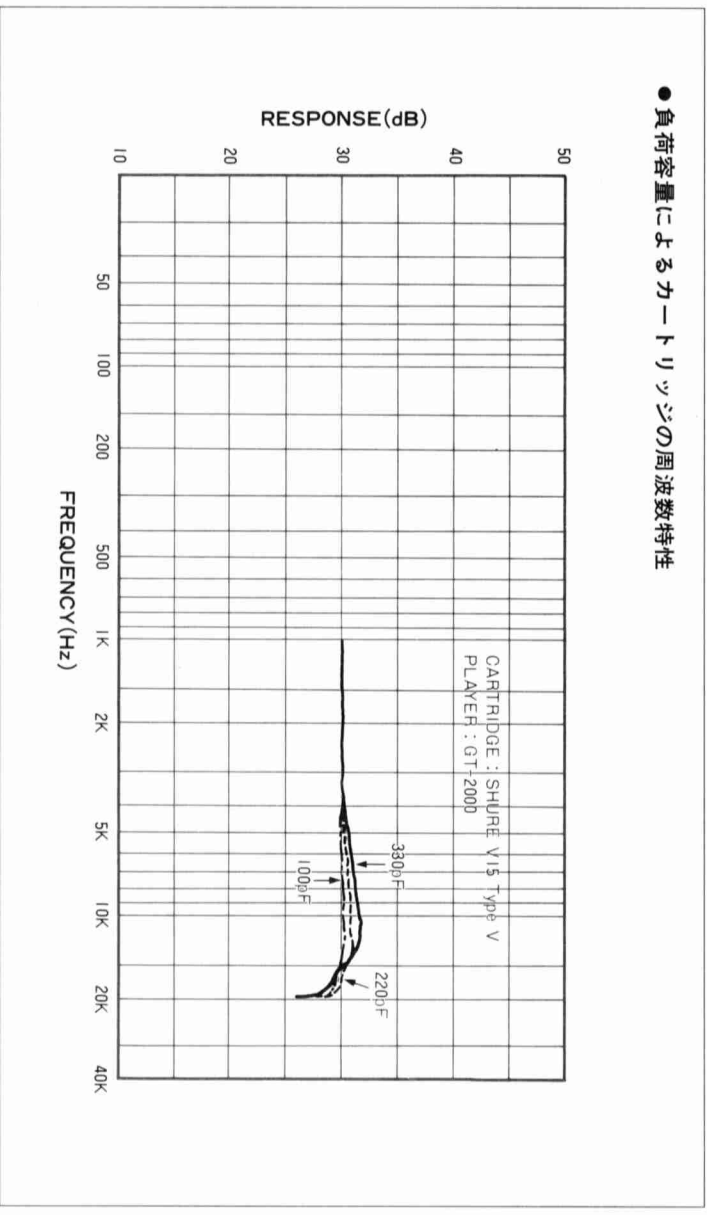
※PHONO 1端子で、MM型等高出力カートリッジで演奏しているとき、PHONOセレクターをMCポジションにすると、音量が急激に変化しスピーカーに悪影響を与えます。

●PHONO 2端子のプレーヤーは……

MM型 (IM, MI型) カートリッジ専用となり、カートリッジロードも47k Ω 、220pFに固定されています。セレクターをPHONO 2ポジションにしてご使用ください。

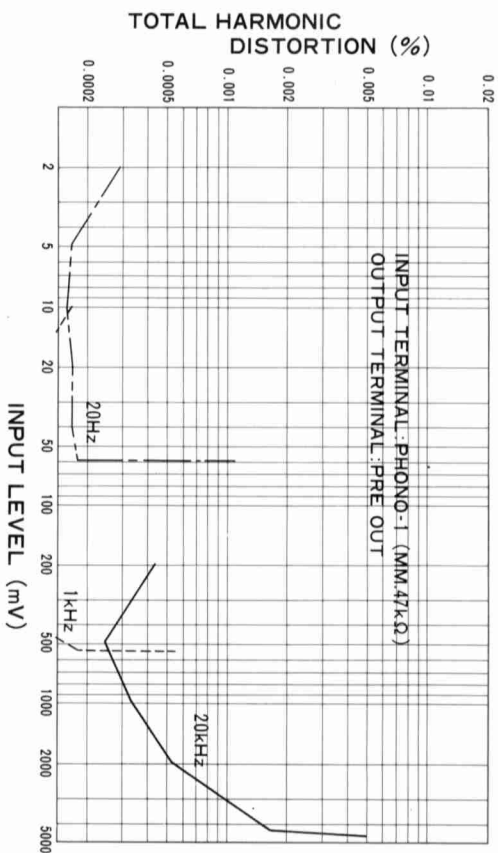


●負荷容量によるカートリッジの周波数特性

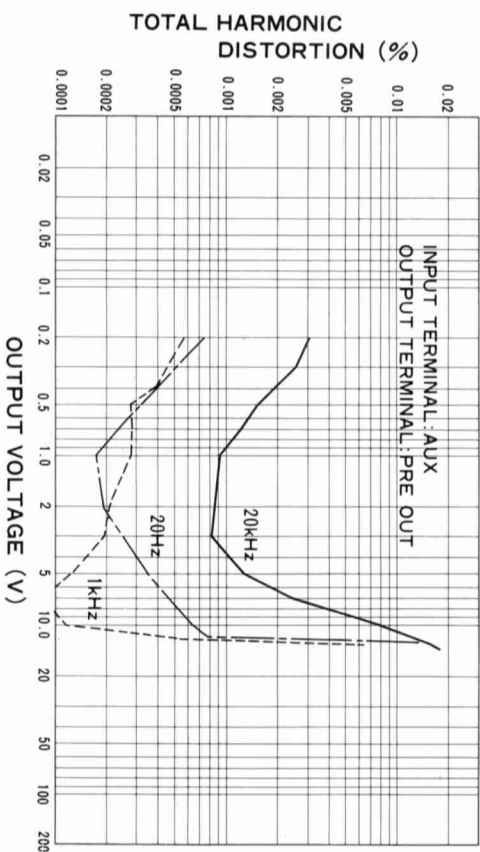


特性表

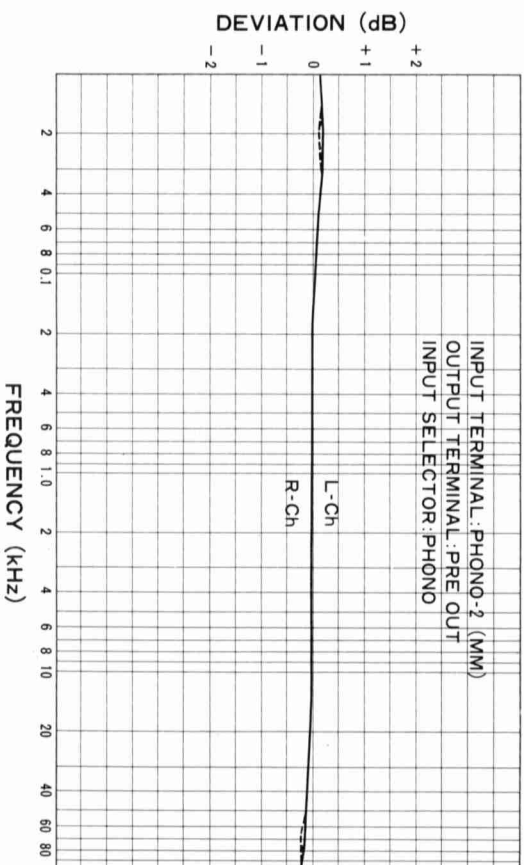
● PHONO入力対全高調波歪率特性

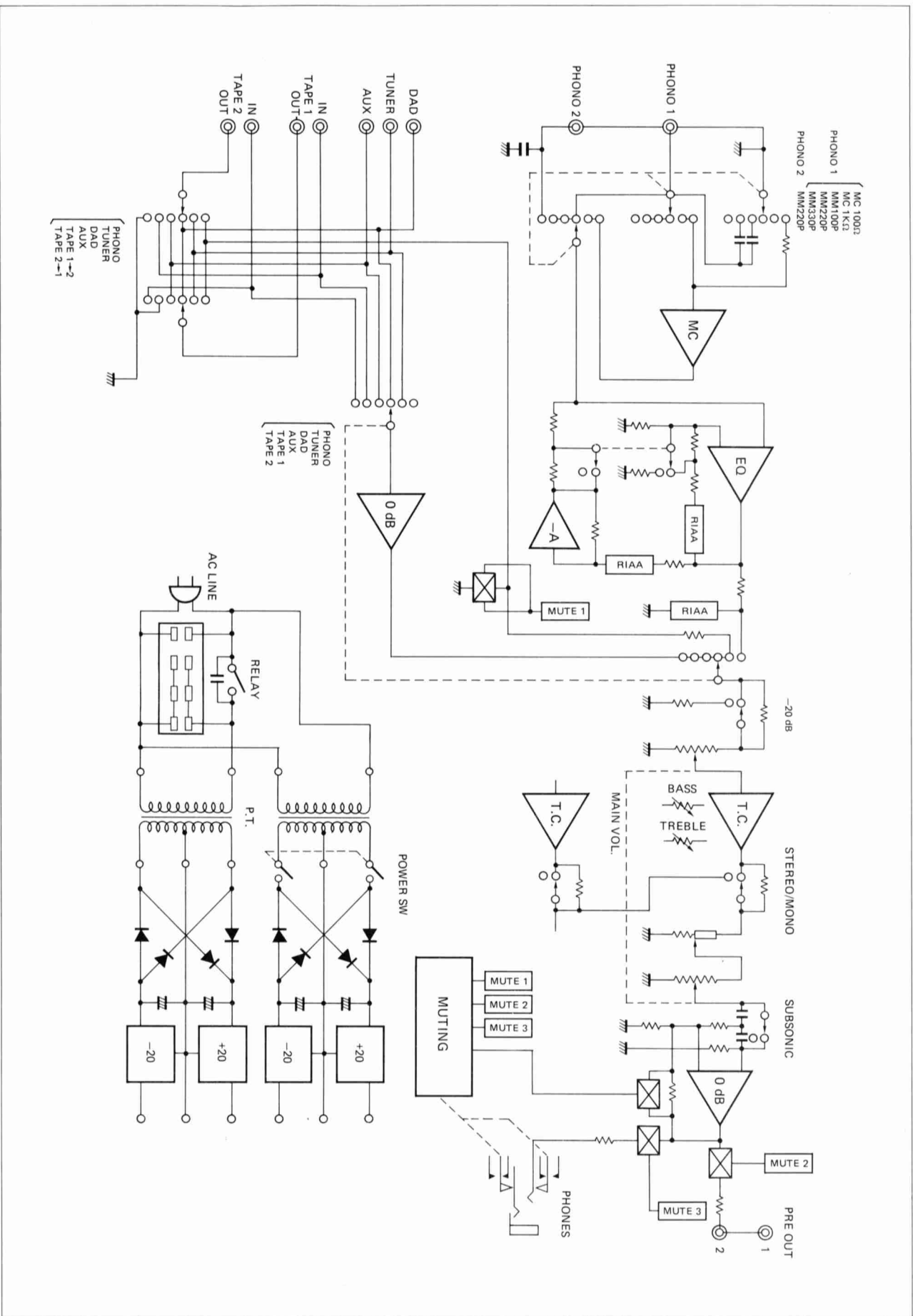


● 出力電圧対全高調波歪率特性



● RIAAイコライザ特性





- 入力感度／入力インピーダンス (1kHz)
 - PHONO 1 (MM).....7.9mV, 2.5mV/47kΩ—100pF
-220pF
-330pF
 - PHONO 1 (MC).....316μV, 100μV/100Ω, 1kΩ
 - PHONO 2 (MM).....7.9mV, 2.5mV/47kΩ
 - DAD.....150mV/2.2MΩ
 - TUNER, AUX.....150mV/47kΩ
 - TAPE 1, 2.....150mV/47kΩ
- 最大許容入力
 - PHONO 1, 2 (MM, 1kHz, THD 0.01%).....530mV
 - PHONO 1 (MC, 20kHz, THD 0.01%).....21mV
- 出力レベル／出力インピーダンス (1kHz)
 - PRE OUT 1, 2.....1.5V/47Ω
 - REC OUT 1, 2.....150mV/470Ω
- 最大出力 (20Hz~20kHz)
 - PRE OUT 1, 2.....10V (THD 0.01%)
 - REC OUT 1, 2.....9V (THD 0.01%)
- 歪率 (20Hz~20kHz, 2次~10次)
 - PHONO 1, 2 (MM)→REC OUT.....0.001%以下 (3V出力時)
 - PHONO 1 (MC)→REC OUT.....0.002%以下 (3V出力時)
 - DAD, TUNER, AUX, TAPE 1, 2→PRE OUT.....0.001%以下 (3V出力時)
- 周波数特性
 - PHONO 1, 2 (MM, RIAA偏差).....20Hz~20kHz, ±0.2dB
 - PHONO 1 (MC, RIAA偏差).....20Hz~20kHz, ±0.2dB
 - PHONO MM, MC.....10Hz~100kHz, ±0.5dB
 - DAD, TUNER, AUX, TAPE 1, 2.....10Hz~100kHz, ±0.2dB
- トーンコントロール
 - BASS.....±10dB (20Hz)
 - BASSターノオーバー周波数.....350Hz
 - TREBLE.....±10dB (20kHz)
 - TREBLEターノオーバー周波数.....3.5kHz

- サブソニックフィルター.....15Hz, 12dB/oct
- オートイオミューチインク.....20dB
- S/N比 (IHF, Aネットワーク)
 - PHONO 1, 2 (MM, 2.5mV).....93dB以上
 - PHONO 1 (MC, 250μV換算).....84dB以上
 - DAD, TUNER, AUX, TAPE 1, 2.....106dB以上
- 入力換算雑音 (IHF, Aネットワーク)
 - PHONO 1, 2 (MM).....-144dBV
 - PHONO 1 (MC).....-160dBV
- 残留ノイズ (Vol. min.).....1μV以下
- チャーンルセパレーション
 - PHONO 1, 2 (MM)→PRE OUT
(Vol. max, 1kHz, 0Ωショート).....86dB
 - PHONO 1 (MC)→PRE OUT
(Vol. max, 1kHz, 0Ωショート).....76dB
 - DAD, TUNER, AUX, TAPE 1, 2→PRE OUT
(Vol. max, 1kHz, 0Ωショート).....90dB
- 総合
 - 定格電源電圧.....AC100V
 - 定格電源周波数.....50/60Hz
 - 定格消費電力.....30W
 - 予備電源コンセント.....SWITCHED×3 : Total450W
UNSWITCHED×1 : 400W
 - 外形寸法 (W×H×D).....435×73.5×353mm
 - 重量.....8.0kg
 - 付属品.....ピンコード×1, 六角レンチ1.5φ×1

※規格及び外観は改良のため予告なく変更されることがあります。

故障と思われるときには

ご使用中なにか異常が認められました場合は、下記の事項をご確認ください。それでも直らない場合は、電源プラグを抜き、お買い上店か最寄りの弊社電音サービス拠点までご連絡ください。

症 状	原 因	処 置
電源スイッチをONにしても電源が入らない	電源コードのプラグが電源コンセントにしっかりと差し込まれていない	電源プラグを電源コンセントにしっかりと差し込みなおしてください
	上記接続が確実にされ停電状態でなくともONしない	お買い上店か弊社電音サービス拠点にご相談ください
INPUTスイッチを切り換えても再生音が全く出ない	インプットセレクターが確実にセットされていない	正しい位置に確実にセットしてください
	VOLUMEつまみが絞られている	VOLUMEつまみを右に回してください
	入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください
	出力コードの接続が不完全	出力コードの接続を確認してください
左右スピーカあるいは左右いずれかのスピーカから音が出ない	コントロールアンペアアンペア、またはパワーアンペアとスピーカの接続が不完全	接続、または動作を確認してください
	BALANCEつまみがLかRのどちらかにずれている	BALANCEつまみを正しく調整してください
VOLUMEをあげても音量が余り大きくならない	AUDIO MUTINGスイッチがONになっている	AUDIO MUTINGスイッチをOFFにして再調整してください
	ピンプラグの接続不良	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください
レコード演奏のとき、「ブーン」というハム音が入る	プレーヤーのアンペア線をGND端子に接続していない	アンペア線をリアパネルGND端子に接続してください
	近所に送信所・業務無線局・アマチュア無線局等がある	お買い上店か弊社電音サービス拠点にご相談ください 電波を発射している所に相談してください
レコード再生時、VOLUMEをあげると「ブーン」という音が出る	レコードプレーヤーとスピーカシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして「ハウリング」をおこしている	レコードプレーヤーとスピーカシステムの各々の設置場所を変えてください
MCカートリッジの音が小さい	MCカートリッジの出力コードをPHONO 2端子に接続してある	PHONO 1端子に接続し、PHONOスイッチをMCポジションにしてください

サービスのご依頼について

●サービスのご依頼・お問合せは、お買い上げ店、またはYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお願い致します。

■保証期間

お買い上げ日より1年間です。

■保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様の要望により有料にて修理いたします。

■補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障と思われるときには」(13ページ)をお読みになつてください。意外と故障でない場合があるものです。

■持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください)

■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

お客様ご相談窓口

東京電音サービスセンター	大阪電音サービスセンター	九州電音サービスセンター	北海道電音サービスセンター	仙台電音サービスセンター
〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 235-2241	〒565 茨城県新井町下-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134	〒065 札幌市東区本町1-6(3番地) TEL (011) 781-3621	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸南共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249
東京電音サービスセンター	大阪電音サービスセンター	九州電音サービスセンター	北海道電音サービスセンター	仙台電音サービスセンター
〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 235-2241	〒565 茨城県新井町下-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134	〒065 札幌市東区本町1-6(3番地) TEL (011) 781-3621	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸南共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249
東京電音サービスセンター	大阪電音サービスセンター	九州電音サービスセンター	北海道電音サービスセンター	仙台電音サービスセンター
〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 235-2241	〒565 茨城県新井町下-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134	〒065 札幌市東区本町1-6(3番地) TEL (011) 781-3621	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸南共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249
東京電音サービスセンター	大阪電音サービスセンター	九州電音サービスセンター	北海道電音サービスセンター	仙台電音サービスセンター
〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 235-2241	〒565 茨城県新井町下-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134	〒065 札幌市東区本町1-6(3番地) TEL (011) 781-3621	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸南共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249
東京電音サービスセンター	大阪電音サービスセンター	九州電音サービスセンター	北海道電音サービスセンター	仙台電音サービスセンター
〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4(龍名館ビル4F) TEL (03) 235-2241	〒565 茨城県新井町下-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134	〒065 札幌市東区本町1-6(3番地) TEL (011) 781-3621	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸南共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249

お預り品修理拠点

東京電音サービスセンター	〒171 東京都練馬区高野台2-3-10 TEL (03) 504-4901
大阪電音サービスセンター	〒565 茨城県新井町下-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
名古屋電音サービスセンター	〒460 名古屋市中区栄1丁目8-7 TEL (052) 231-7896
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1-6(3番地) TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸南共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249
本社	〒430 浜松市中区丹波10-1 TEL (0534) 65-1111

■日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430 浜松市中区丹波10-1 TEL (0534) 65-1111
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL (03) 572-3111
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL (03) 572-3131
横浜支店	〒220 横浜市西区南幸2-15-13 TEL (045) 311-1201
大塚支店	〒542 大阪府南区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館8-9F TEL (06) 251-1111
心斎橋店	〒542 大阪府南区心斎橋船場2-39 TEL (06) 211-8331
神戸支店	〒650 神戸市中央区元町通2-188 TEL (078) 321-1191
高松支店	〒460 高松市丸亀町8-7 TEL (0878) 51-7777
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052) 201-5141
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2151
小倉支店	〒802 北九州市小倉区魚町1-1 TEL (093) 531-4331
北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目「マツセン」 TEL (011) 512-6111
仙台支店	〒980 仙台市大町2丁目2番10号 TEL (0222) 22-6141
広島支店	〒730 広島市中区豊町13-13 平和生命広島ビル8F TEL (082) 221-4122
浜松支店	〒433 浜松市東3-5-8 TEL (0534) 74-3356
高松支店	〒430 浜松市鍛冶町321-6 TEL (0534) 54-4077
海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・ソングカール・フレイベン

住所及び電話番号は変更になる場合があります。

日本楽器製造株式会社

